



オトナのふるさと学習

月刊このへん だいすき

8月号

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ
最近引っ越してきたあなたも
生まれてこのかたずっと「このへん」なあなたも
読めばたちまち、「このへん だいすき」に

作 セルジュ・タカハシ

ドキドキ♪



全国ベスト8の有名なお化けは 実は「このへん」の出身だった。 怖いけどナイスな活躍と、 その後のことが凄すぎた件。

全国で
ベスト8

有名な
お化け

凄すぎた
その後

すごい!



俳人の与謝蕪村が江戸時代に書いた『妖怪絵巻』(宝暦4年)で、全国を代表する8つの妖怪のひとつとして「蛇の崎が橋うぶめの化物」を紹介。

お産で死んだ女のお化けは全国的に化けて出る。特に蛇の崎のうぶめは小泉八雲や民俗学者の柳田国男が全国に紹介し、講談にまでなった。

怖いのを必死でこらえてうぶめに協力した横手城の武士は、お礼に150人力のとんでもない怪力を授けられ、その後も横手城下で大活躍した。

へえ~



あらわれたのは蛇の崎橋です。城詰めの妹尾兼忠という若侍が通りかかると、白装束の女が抱いている赤ん坊を預かってほしいと言って消えてしまいます。渡された子どもはどんどん重くなり、にらみつけてくるので、侍は念仏をとなえ続けました。やがてもどって来た女の人は「このへん」の氏神様で、難産で苦しむ氏子を助けてきたと言い、「念仏のおかげで母子ともに健康です」と助産師さんのように言う。「お礼を授けましょう」と伝えていなくなりました。若侍が授かったのは、放り投げた大木の復旧に、五十人で三日かかったという怪力でした。うぶめの妖怪こと氏神さんと侍のグッジョブな関係プレーは、たちまち全国に広がり、与謝蕪村の『妖怪絵巻』で全国八強入り。また「怪談」で有名な小泉八雲ことラフカディオ・ハーンが、「梅津忠兵衛の話」として紹介して世界進出を果たしました。この怪力侍をたたえる石碑は、今も横手公園に建っています。

POINT

蛇の崎橋に出たうぶめの妖怪は、江戸時代に全国で有名だった。「怪談」の小泉八雲が英語で紹介して全世界に広めてしまった。

